



美豆だより

特別号

平成28年11月吉日
京都市立美豆小学校
校長 高嶋 登

美豆小学校HP QRコード



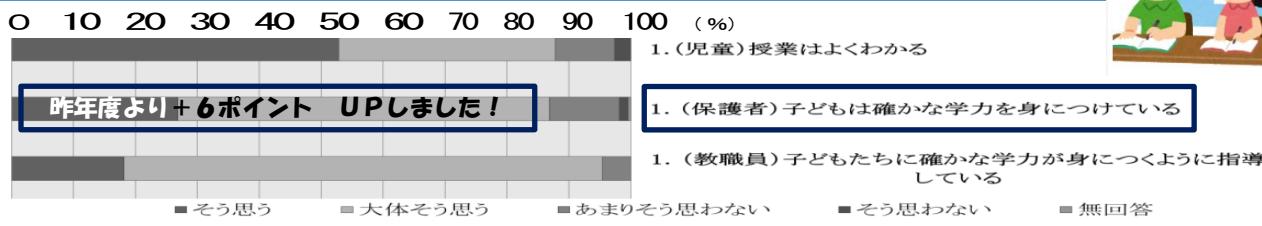
紅葉の候 皆様におかれましてはますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。日頃は本校教育にご理解ご協力をいただきありがとうございます。



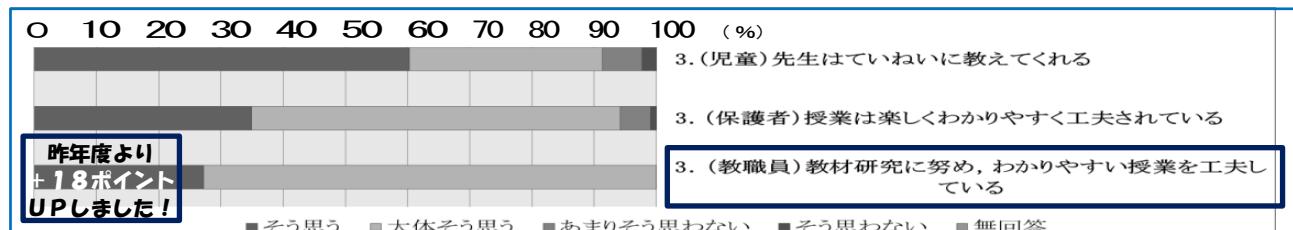
お忙しい中、学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一人一人の声を大切にすると共に、共通認識のもと連携して取組をすすめ、子どもたちの学校生活をよりよいものにすることをめざしています。

1. 学力面について

① 学力について



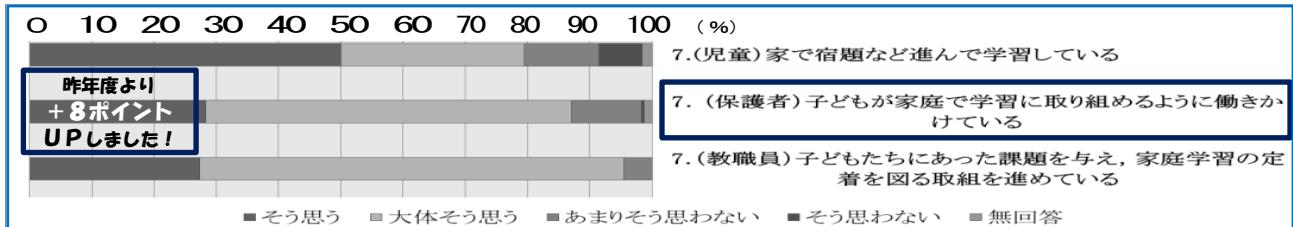
② 授業について



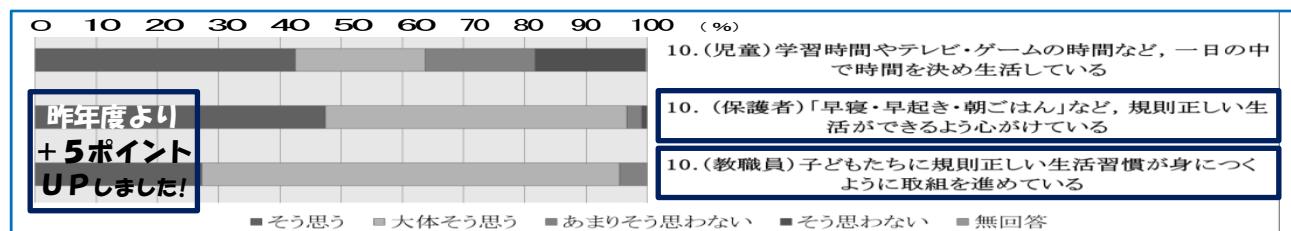
③ 読書について



④ 家庭学習について



⑤ 生活リズムについて



☆昨年度前期学校評価アンケートとの比較を通した分析

①の学力と②の授業理解について、保護者の「そう思う・大体そう思う」を合わせた数値が6ポイント増加し、教職員においては、「そう思う」の数値が18ポイント増加しました。保護者の「学力は向上してきている」という意識の現れと教職員の数値上昇は、日々の教材研究と丁寧な授業準備による効果と考えます。教員の授業力向上は、子ども達の意欲を高めることにつながります。今後もさらに授業改善などの取組を進めています。

③の読書習慣の定着に関して、児童の「そう思う・大体そう思う」を合わせた数値が7ポイント増加しました。朝読書や、図書ボランティアによる季節ごとのイベントやサタデースクール「てっぺん読書」等への参加を通して、児童が図書館に来館する機会が増加したことや、図書館支援員と連携し、教科での図書館活用時間数が増加したことによるものと考えられます。

今後も図書館を活用した授業展開を積極的に取り入れ、取組を進めています。ご家庭でもぜひ、読み聞かせを楽しみながら取り組んでいただくことをお薦めします。

④の家庭学習において、保護者の「そう思う」の数値が8ポイント増加しました。家庭学習は学力定着において大変重要です。今後もご家庭での積極的な働きかけをお願いいたします。



⑤の生活リズムにおいて保護者・教員の「そう思う」の数値が各5ポイントずつ増加しました。生活リズムが整うほど、学習に向かう気持ちも高まります。全国学力学習状況の児童質問紙では、「1日4時間以上テレビやゲーム・スマートフォンをする」と答えた児童の割合が全国平均を大幅に上回っていました。ルールをご家庭で話し合う等、時間を決めることが大切です。テレビを消して家族団らんの時間を意識するようにしていただきたいと思います。

【家庭からのご意見】

○とても楽しそうに学校に通っているので、安心しています。学年通信の配布やHPの更新がまめに行われ、学校の様子が保護者にもよく分かります。

○朝の校門での挨拶ありがとうございます。挨拶ができる子になってほしいです。

○子どもが悪いことをした時にはきちんと叱って、良いことをした時には一緒に喜んでくれ、安心して子どもを送り出せます。

●参観時の保護者の私語が大変気になります。教室に私語が聞こえ、子どもが集中して授業を受けられないと思います。

●子どもの小さな「出来た。出来る。」をたくさん褒めて伸ばしてほしいです。自信を持って取り組む力をつけてほしいです。

内容を踏まえ今後の学校運営に生かしていきたいと思います。今後ともご理解・ご支援いただきますよう、お願いいたします。

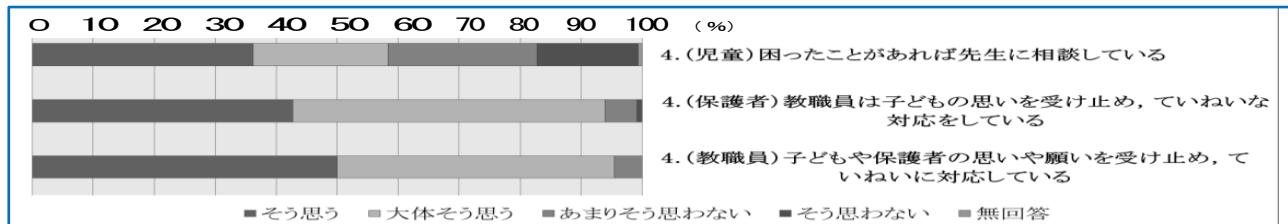
2. 生活面について

① 学校の楽しさについて

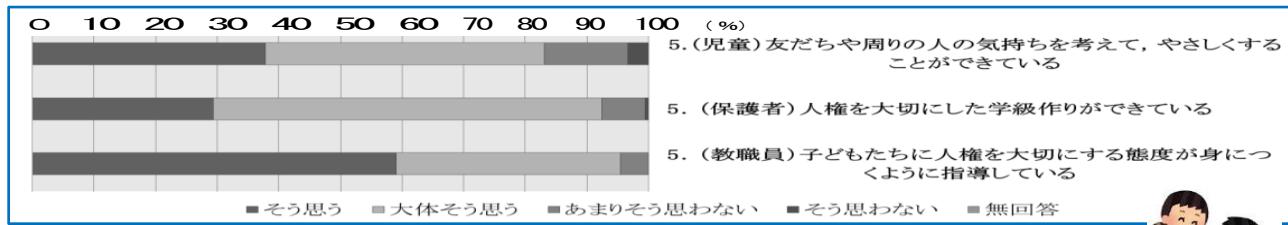
昨年度より
+6ポイント



② 思いや願いの受け止めについて



③ 人権(思いやり)について



④ きまりについて

昨年度より
+6ポイント

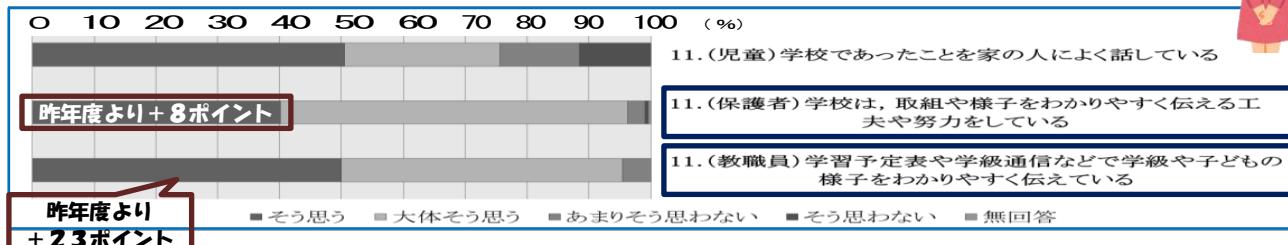


昨年度より
+23ポイント

⑤ あいさつについて



⑥ 学校・家庭との連携について



昨年度より
+23ポイント

★昨年度前期学校評価アンケートとの比較を通した分析

①学校の楽しさにおいて、ほとんどの子どもたちが楽しく学校に通えているようですが、「そう思わない」「あまりそう思わない」を合わせた数値が昨年度より6ポイント増加しています。学年別に見ると低学年より高学年の数値の方が高くなる傾向にあります。また、②の思いや願いの受け止めにおいても同様の傾向が見られました。教職員はこれを真摯に受け止め、学校は楽しいと思えるように、また、先生に相談しようと思えるように、これまで以上に児童の日々の様子を丁寧に見ていきます。

③の思いやり・④のきまりや⑤の挨拶について、保護者の数値において昨年度の数値から大きな変化は見られませんでした。傾向として、決まりを守ることや挨拶することについての意識が高いことが分かります。

これは、小中連携した挨拶運動の取組や地域見守り隊をはじめとする温かな声かけの成果と考えます。今後も声かけをしながら、教職員もお手本を見せていきます。



一方で、児童の④きまりをまもることにおいて、「あまりそう思わない」の数値が6ポイント増加していました。反対に教職員においては、「そう思う」が23ポイント増加しています。この結果を踏まえ、規範意識の育成と共に、道徳教育を通じた自己肯定感の育成にも力を注いでいきます。

⑥の連携において、保護者・教職員の「そう思う」の数値が8～23ポイント増加しました。今後もHPやおたより等で学校の様子を発信していきます。学校での様子をご家庭で話題にしていただきたいと思います。



3. 「学校運営協議会」による学校関係者評価(外部評価)

【家庭と連携した学力向上を】

・夏季休業中の宿題や日ごろの家庭学習における家庭での支援の在り方についての質問がありました。児童自らが丸付けし、おさらいをするのが望ましいですが、低学年という発達段階や個の学力に合わせた支援の在り方は様々です。また、課題を終えてから、時間を置かずに丸付けをする方が学習効果は上がります。家庭学習に対する保護者・児童の意識を高め、保護者の協力をお願いします。

【規範意識向上に向けて】

・「時間を守る」という意識を高めてほしいというご意見をいただきました。夏休み明けから予鈴を設け、児童自ら行動するよう促した結果、予鈴音楽を合図に余裕をもって行動できる児童が増えてきました。今後さらに、時間を守ろうとする意識改革が教員にも子どもにも必要と考えます。

【同じ意識・同じ価値で地域・家庭・学校が連携して】

・「部活動や学校行事等で子どもたちとの距離が縮まり、子どもたちの顔と名前が一致するようになってきた。部活動の練習や試合で声をかけると、嬉しそうにする子どもたちの様子を見て、互いに元気になれる。」というご意見をいただきました。今後も地域・家庭・学校が連携して、様々な目で子どもたちを見守り育んでいきたいと思います。ご協力をお願いいたします。

